

目的 Unconstructiveな衣服のシルエットは、 $\sqrt[3]{B/W}$ 、 $\sqrt{2HB/W}$ (B布の曲げ剛性、2HB曲げヒステリシス幅、W単位面積当りの重量)などのパラメーターによって支配される¹⁾。本報では、これらの特性値と着衣基体を一定とし、布の自重すなわちスカート丈がギャザースカートの着装形態に及ぼす影響を検討した。また裾の始末(本報では折り方のみ扱い、縫い方については次報に譲る。)の方法によるヘムラインの形状を併せて比較検討した。

方法 ギャザースカートに多く用いられる材料を数種選り、婦人9号サイズの人台を着衣基体として寸法を設定した。ウエスト寸法(62cm)の0.52、1.16、1.81倍のギャザー量を加えた3タイプについて各々35cmから70cmまで、5cm間隔でスカート丈を変化させた。また、裾の始末は、①裁ち目のまま。②5cm幅で折り返してしつけをかける。③②をさらにアイロンで押え平らにする。の3方法について比較検討した。測定は、2台のカメラと鏡を利用して正面方向および下方向からの同時撮影を行った。人台に着装させたスカートの前面、後面、側面、平面写真から、裾角度、裾幅、ヘムラインのノード数、波高、波高変動率を求め、シルエットの変化を検討した。

結果 ギャザースカートは、丈が長くなると裾角度が大きくなる。いかえると張り出した形から垂れ下がった形態となり、特に70cmの丈では、ギャザー分量に関わらず裾角度は90°となり、曲げ特性による裾の広がり効果が布の自重によって抑制されることが明らかとなった。また裾の始末では、②の方法が他の方法に比べ、滑らかなヘムラインが得られ難いこと等が認められた。

文献 1)丹羽、瀬戸; 繊維学会誌論文集, 39, T161(1986)